

県内におけるピロリ菌検査実施体制に関わる課題提起

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会

鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

- 日 時 平成31年3月9日（土） 午後2時30分～午後3時45分
- 場 所 鳥取県立倉吉未来中心「セミナールーム1」 倉吉市駄経寺町
- 出席者 24人
 謝花専門委員長
 秋藤・伊藤・岡田・尾崎・斎藤・瀬川・高橋・西土井・野口・原田・三宅・
 八島・米川・米原各委員
 県健康政策課がん・生活習慣病対策室：植木課長、山本課長補佐、松本係長
 健対協事務局：谷口事務局長、岩垣課長、神戸係長
 オブザーバー：植垣鳥取市保健師、宇佐見米子市保健師、伊澤伯耆町主幹

【概要】

- ・平成29年度の受診率は27.2%で平成28年度に比べ0.4ポイント増であった。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は78.6%で、年々増加している。

X線検査の集団検診の要精検率8.4%、医療機関検診は13.7%（東部17.5%、中部8.3%、西部9.5%）で、東部の要精検率が17.5%と許容値を大幅に超えており、その要因について、東部地区において分析することとなった。

- ・平成30年度から県と協会けんぽが協力して行っている職域検診におけるピロリ菌検査及びペプシノゲン検査の導入について、実施状況の報告があった。

※平成30年度実績（3月5日時点の支払い状況）

受診者数：1,207人、要精検者数254人、
除菌治療実施者84人

今年度は陰性高値の者の取扱いが明確で

はなく、医療機関により取扱い差が生じていたので、平成31年度に向けては取扱いを整理して周知することが報告された。

- ・南部町が新たに平成31年度からピロリ菌検査（便中抗原検査）の実施を検討していることについて報告があった。

委員からは、南部町のピロリ菌検査の実施については問題がないとしつつも、現状の実施要綱には問題があることから、実施にあたっては事前に委員とよく相談した上で実施するよう意見があった。

また、併せて、市町村がそれぞれ実施することについては精度管理上問題があることから、県から、「胃がん部会・胃がん対策専門委員会」において平成32年度以降に向けてピロリ菌検査を実施する市町村への助成事業の検討と、標準的なピロリ菌検査の実施体制等の検討をお願いしたいことについて報告があった。これに対しては、委員からは検査方法や検査後の内視鏡検査の

受診勧奨、ピロリ菌除菌後の受診者への胃がんリスクの広報に課題があることなど意見があった。

挨拶（要旨）

〈謝花委員長〉

ご多忙のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日は、磯本部長に代わって、私が議事進行を行いますので、よろしくお願いします。

さて、昨年12月8日、9日に開催しました「第49回日本消化器がん検診学会中国四国地方会・第49回中国四国地方胃集検の会」につきましては、鳥取県健康対策協議会の関係者の皆さまにご協力、ご支援を頂きましたことを、深謝申し上げます。

委員会終了後、講習会を予定しており、多くの議題が挙がっているが、速やかに進めていきたいと思うので、よろしくお願いします。

報告事項

1. 平成29年度胃がん検診実績報告並びに30年度実績見込み及び31年度計画について〈県健康政策課調べ〉：

松本県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

〔平成29年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）189,132人のうち、受診者数はX線検査11,029人、内視鏡検査は40,453人で合計51,482人、受診率は27.2%で前年度に比べ受診者数837人、受診率は0.4ポイント増加した。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は78.6%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数27,300人、受診率35.5

%であった。

X線検査の要精検者数は993人、要精検率9.0%で、前年度より0.4ポイント増加した。精検受診者数830人、精検受診率は83.6%で前年度より2.9ポイント減少した。集団検診の要精検率8.4%。医療機関検診は13.7%（東部17.5%、中部8.3%、西部9.5%）で、例年は中部の要精検率が高い傾向にあった。許容値11.0%以下となり改善されたが、一方で、東部の要精検率が17.5%と許容値を大幅に超えており、その要因について、東部地区において分析することとなった。

内視鏡検査の組織診実施者数1,485人、組織診実施率3.7%で、東部4.0%、中部4.6%、西部3.0%であった。

検査の結果、胃がん148人（X線検査15人、内視鏡検査133人）、がん発見率（がん／受診者数）は、0.29%（X線検査0.14%、内視鏡検査0.33%）で、平成28年度に比べ、胃がん11件、がん発見率は0.02ポイント減であった。胃がん疑い88人（X線検査3人、内視鏡検査85人）であった。

陽性反応適中度（がん／要精検者）はX線検査1.5%で、東部1.7%、中部2.2%、西部0.7%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ9.0%で、東部6.0%、中部8.4%、西部13.4%であった。

〔平成30年度実績見込み及び平成31年度計画〕

平成30年度実績見込みは、対象者数189,132人に対し、受診者数は52,336人、受診率27.7%で、前年度より約850人増加する見込みである。平成30年度から日南町、日野町が内視鏡検診を開始されたことにより、19市町村で内視鏡検診が実施されることとなった。また、平成31年度実施計画は、受診者数54,705人、受診率28.9%で計画している。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：三宅委員

〔住民検診〕

平成29年度の受診者数9,572人で平成28年度に

比べ473人の減少であった。

そのうち、要精検者807人、要精検率8.4%（東部7.4%、中部9.7%、西部8.6%）で、判定4と5の割合は4.1%（東部6.1%、中部3.3%、西部2.5%）であった。

要精検者数に対してのがん発見率は2.1%（東部2.0%、中部2.9%、西部1.3%）であった。平成28年度に比べ、要精検率は同率、がん発見率は0.1ポイント増であった。

受診勧奨は市町村より行われているが、精検結果未報告は14.7%で、前年度に比べ1.6ポイント増であった。がん発見率0.18%。

初回受診者は1,268人で、要精検者は114人、要精検率は9.0%であった。判定4と5の割合は8.8%であった。要精検者数に対してのがん発見率は2.6%であった。

〔一般事業所検診〕

受診者17,526人のうち、要精検者は1,117人で、要精検率は6.4%、判定4と5の割合3.5%、要精検者数に対してのがん発見率は1.3%であった。判定4と5の精検結果未報告については、再度紹

介状を出して、保健師の方から受診勧奨を行っているが、依然として精検結果未報告は33.3%と高い。がん発見率は0.08%である。

肺がん検診、大腸がん検診においても、職域検診の精検受診率が低いことが指摘されたが、胃がん検診においても、精検受診率向上対策が課題であるという話があった。

2. 北栄町、伯耆町におけるピロリ菌検査の実績：

松本県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

○北栄町（平成27年度から実施）

対象者：北栄町在住の中学3年生

方 法：尿中ピロリ菌抗体検査によるスクリーニング検査及び同検査陽性者に対する尿素呼気試験による感染確認の実施。ピロリ菌感染が確認された者のうち除菌を希望する者には除菌治療を実施する。

結果は以下のとおりである。

区 分	H29受診者数 (確定)		H30受診者数 (H31.1末)	
対象者数	126		147	
尿中ピロリ菌抗体検査受診者	99	78.6%	123	83.7%
陰性（－）	91	(91.9%)	117	(95.1%)
陽性（＋）	8	(8.1%)	6	(4.9%)
尿素呼気試験受診者	8	100.0%	5	83.3%
陽性（＋）者(真の陽性)	6	(6.1%)	4	(3.3%)
ピロリ菌除菌治療実施者	6	100.0%	4	100.0%
除菌完了者	2	(33.3%)	3	(75.0%)
除菌未完了者	4	(66.7%)	0	(0.0%)
(除菌判定未了)	0	(0.0%)	1	(25.0%)

○伯耆町（平成26年度から実施）平成28年度実績

対象者：20歳、35～70歳の者。

方 法：町内医療機関または集団検診会場で受診者に対して採血し、抗体検査の実

施。陰性者にはペプシノゲン検査を追加。

結果は以下のとおりである。

区 分	H29受診者数（確定）		H30受診者数（H31.1末）	
	総数	うち新成人	総数	うち新成人
ピロリ菌抗体検査（血液検査）	240	32	205	22
陽性（＋）者	55（22.9%）	5	53（25.9%）	1
↳（医療機関での精密検査受診）	32（58.2%）	0	35（66.0%）	0
陰性（－）者	185（77.1%）	27	151（73.7%）	21
↳（陰性で高値の者）	35	6	36	8
ペプシノゲン検査	185	27	151	
陽性（＋）者数	3（1.3%）	0	2（1.0%）	
↳（医療機関での精密検査受診）	0（0.0%）	0	0（0.0%）	
陰性（－）者数	182（75.8%）	27	149（72.7%）	
ピロリ菌除菌治療費助成対象者数	0		0	

○伯耆町の取り組みにおいて、ピロリ菌抗体陰性者のうち、ペプシノゲン検査陽性者が精密検査を受診していないことについて指摘があった。

※胃がん検診（内視鏡検査）のきっかけとなっているという意見の一方、除菌治療後も定期的な内視鏡検査を受診する必要があることの啓発が必要という意見があった。

素呼気試験等）を実施すると陽性となるケースが多いという意見があった。また、要精密検査では、内視鏡検査のみではなく他の方法によるピロリ菌検査も追加する検査フローチャートを作成することについても提案があった。

よって、平成31年度へ向けた検査フローチャートについては、改めて修正することとなった。

3. 働きざかり世代の胃がん対策事業の実施状況について：

松本県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

平成30年度より協会けんぽ鳥取県支部が行う特定年齢の者の生活習慣病予防健診と併せてピロリ菌検査及びペプシノゲン検査を実施している（県、協会けんぽ鳥取県支部で費用を負担し、受診者本人の負担ゼロである）。

平成30年度実績（3月5日時点の支払い状況）は次のとおりである。

受診者数：1,207人、要精検者数254人、除菌治療実施者84人

今年度は陰性高値の者の取扱いが明確ではなく、医療機関により取扱い差が生じていたので、平成31年度に向けては取扱いを整理して周知することが報告された。

委員からは、陰性高値の者は他の検査方法（尿

4. 南部町のピロリ菌検査の実施予定等について：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

南部町が新たに平成31年度から年度末に30～39歳になる方を対象にピロリ菌検査（便中抗原検査）の実施を検討していることについて報告があった。

委員からは、南部町のピロリ菌検査の実施については問題がないとしつつも、現状の実施要綱には問題があることから、実施にあたっては事前に委員とよく相談した上で実施するよう意見があった。

また、併せて、市町村がそれぞれ実施することについては精度管理上問題があることから、県から「胃がん部会・胃がん対策専門委員会」において平成32年度以降に向けてピロリ菌検査を実施す

る市町村への助成事業の検討と、標準的なピロリ菌検査の実施体制等の検討をお願いしたいことについて報告があった。これに対しては、委員からは検査方法や検査後の内視鏡検査の受診勧奨、ピロリ菌除菌後の受診者への胃がんリスクの周知徹底に課題があることなど意見があった。

結論については次回の夏部会で検討することとなった。

協議事項

1. 「鳥取県胃がん検診実施に係る手引き」の一部改正について

夏部会において検討することとされた「胃精密検査紹介状」の様式の改正案が示され、検討した結果、一部修正した上で改正することについて了承された。

○主な改正点は以下のとおりである。

精検方法の項で、細胞診を削除した。診断名の項では、②の非上皮性悪性腫瘍を胃非上皮性悪性腫瘍に、また、その他の悪性腫瘍を追加し、④胃腺腫瘍を胃腺腫とした。

2 精検結果

(1) 精検方法

①内視鏡 ②組織診 ③その他

(2) 診断名

①胃がん

②胃非上皮性悪性腫瘍

③その他の悪性腫瘍 ()

④胃腺腫 (異形上皮・ポリープ)

2. 読影不能であった場合の費用負担について

鳥取市から読影不能であった場合の対応について検討をお願いしたいと依頼があって、協議した。

胃がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 平成31年3月9日(土)

午後4時～午後5時30分

場 所 鳥取県立倉吉未来中心「セミナールーム3」 倉吉市駄経寺町

出席者 137名

(医師：131名、看護師：1名、保健師：5名)

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県健康対策協議会理事 米川正夫先生の座長により、弘前大学大学院医学研究科 消化器血

液内科学講座教授 福田眞作先生による「これからの胃がん診療～胃がん検診を中心に～」の講演があった。

症例検討

岡田克夫先生の進行により、症例を報告していただいた。

1) 西部症例(1例)：米子医療センター

原田賢一先生

2) 東部症例(1例)：鳥取県立中央病院

岩本 拓先生

3) 中部症例(1例)：鳥取県立厚生病院

細田康平先生